



| | |
|--------------|---|
| Title | WHOニュース 11月／12月／1月 |
| Author(s) | |
| Citation | 目で見るWHO. 2024, 88, p. 24-29 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://doi.org/10.18910/97187 |
| rights | |
| Note | |

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

11 月
November

「健康都市パートナーシップ」

2023世界都市デーのテーマは「都市開発の資金調達のための公共投資の増強」。非感染性疾患や傷害の予防で人々の命を救うとする「健康都市パートナーシップ」に、大阪のほか70以上の主要都市が参加。

WHO認定機関（WLA）に3か国 の機関を指定

WHO-Listed Authorityは、安全で効果的かつ質の高い医薬品へのアクセスと供給に適合したとして、シンガポール、韓国、イスイスの3機関を認定リストに追加。

人獣共通感染症に関するオンラインコース

新興および流行の人獣共通感染症に対応するために、新しい無料オンラインコースを開設。

健康な高齢化の測定

WHOは、英国老年医学会の機関誌『Age and Ageing』と共同で特集号を発行。高齢者が本来持っている能力や機能的能力を測定するための最善なツールを示す。

気候変動と非感染性疾患の関連性

非感染性疾患（NCDs）や気候変動は相互

に絡み合っており、人類の最大の健康脅威。WHOとウェルカム・トラストは気候変動と健康に関するアジェンダを継続して推進。

WHO：結核治療の「レジメンプロファイル」の更新と「モニタリングと最適化のためのターゲットプロダクトプロファイル」の発表

結核の治療レジメンは長期に及ぶが、世界情勢の影響で、ここ数年薬剤感受性結核の治療成功率は86%前後で停滞。多面的で効率的な治療レジメンと、より効果的な検査法が不可欠。

健康分野における「デジタル介入、サービス、アプリケーション」分類－第2版

WHOは「Classification of digital interventions, services, and applications in health」の第2版を発表。この分類法は、保健、開発、研究、技術の各部門が「デジタル技術の利用」を正確に文書化し、開発および実装を理解し、優先順位を決定するのに役立つ。

食中毒の監視と対応のための全ゲノムシーケンスの利用に関するガイド

WHOは、「食中毒の監視と対応を強化するツールとしての全ゲノムシーケンス（WGS）」ガイダンスを発表。One Health アプローチを使用して発生源を特定するのに役立つ。

2023年世界結核（TB）報告書

WHOの世界結核報告では、2022年に結核診断・治療サービスの拡大が世界的に大きく回復していることが記載。新たな目標には、結核予防やケアサービスが必要な人々への確実なケア、迅速検査の使用、安全で有効な新しい結核ワクチンの利用などが含まれる。

「黄熱病」の流行をなくすための10カ年戦略、中間報告書

WHO、ユニセフ、Gaviワクチンアライアンスが主導する「EYEパートナーシップ」が報告書を発表。

太陽の下で働くと3人に1人が非黒色腫皮膚がんで死亡するとWHOとILOが発表

WHOとILOがEnvironment International誌で発表した共同推計では、がんによる死亡の原因の中で太陽紫外線への職業的曝露が3番目に高い職業関連の危険因子であることが明らかに。

注)本サマリーは、WHO発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう標題及び冒頭部分を仮訳しているものですので、詳細内容については、QRコードを利用して、日本WHO協会のホームページ経由で、ニュースリリークス、声明、メディア向けノートなどの原文にアクセスできます。



COVID-19 の治療に関するガイドライン更新

WHO は非重症 COVID-19 患者に対する推奨を改訂し、高齢者や慢性疾患、障害、慢性疾患の併存者など、これまで高リスクと考えられていた人々のリスク評価を下げ、新「中等度リスク」カテゴリーに分類。

ヒト・オンコセルカ症の撲滅：進捗報告書

オンコセルカ症は、河川失明症として知られる世界第 2 位の感染性失明症で、これに対処するため、新しい WHO 昆虫学マニュアル、オンコセルカ症撲滅マッピングハンドブック草案、オンコセルカ症撲滅のための新たなアライアンスの発足につき記載。

喫煙が慢性閉塞性肺疾患の主な原因

慢性閉塞性肺疾患 (COPD) は世界の 3 番目の死因。その 75% は中低所得国で発生し、主要な危険因子は家庭の大気汚染。高所得国では 70% 以上は喫煙が原因。

「気候主導の健康対策を呼びかけ」ランセット：カウントダウン・レポート

この報告書は「世界的規模で個々の人々、公衆衛生、医療制度のウエルビーイングを危うくする要因が憂慮すべき形で集約している」としている。

国連「健康な高齢化の 10 年」進捗報告書 2021 – 2023

報告書では、2020 年と 2022 年の 10 カ国の国家進捗指標の比較を示している。

5 歳未満児の急性栄養不良対策、新ガイドライン

母乳育児と栄養価の高い家庭食へのアクセスは予防と管理の両面で重要な要素とし、母親と乳幼児を相互依存のペアとしてケアエビデンスに基づいたヘルスケアを提供する上で、地域医療従事者の役割は重要。

精神、神経、薬物使用状態の治療に関する新たな勧告と更新勧告

WHO は、メンタルヘルス・ギャップ・アクション・プログラムガイドライン mhGAP の更新第 3 版を発表。増加する精神・神経・物質使用 MNS (mental, neurological and substance use) 疾患の負担に対処するための能力強化を支援。

WHO が小児と青年の結核管理に関する新しい e コースを開始

『世界結核報告書』によると、2022 年に子どもと青少年で結核と診断され治療を開始したのは半数以下で、子ども達に結核予防とケアへの普遍的なアクセスを確保するため「新しい e コース」を発表。

WHO：顧みられない熱帯病治療医薬品の研究開発優先順位を発表

WHO は、PADO (Pediatric Drug Optimization、小児用医薬品最適化) のニーズに対応するため、調査・開発すべき優先的な医薬品や製剤の特定を目的として、顧みられない熱帯病 : NTDs 5 病疾 (ヒトアフリカトリパノソーマ症、オンコセルカ症、疥癬、住血吸虫症、内臓リーシュマニア症) の「小児用優先製剤リスト」を発表。

Gavi、WHO、ユニセフ：アフリカ諸国へ RTS,S マラリアワクチン初出荷

WHO が推奨する RTS,S 型マラリアワクチン 33 万回分を、初めて出荷。今後、数ヶ月以内にアフリカ諸国に投与される予定。

11月のWHOファクトシート改訂項目

以下のファクトシートが改訂されています。詳しくは当協会のファクトシートのサイトをご覧ください。
<https://japan-who.or.jp/factsheets/>

- ・結核
- ・エルニーニョ・南方振動 (ENSO)
- ・スポットリコーシス
- ・黒色分芽菌症
- ・プライマリヘルスケア
- ・自閉症
- ・食品添加物
- ・子宮頸がん
- ・ジフテリア
- ・薬剤耐性

12月
December

4,000万人以上の健康専門家がCOP28で大胆な健康と気候変動対策を要求

気候変動が人々の健康に及ぼす悪影響から人々を守るために、強固で強靭な健康システムが不可欠で、その対策と資金調達が優先事項。各国保健相らは「気候と健康に関する宣言」を支持。

「マラリア増加 – 気候変動の脅威の高まりに注目」マラリア年次報告書

アフリカではマラリアが増加。2つ目の効果的な新マラリアワクチン R21/Matrix-M が利用可能になることに期待。

効果的な感染予防管理システムの構築: 日本における歴史的レビュー

アジア太平洋・新興感染症対処戦略(APSED III)に基づき、感染予防管理(IPC)が成功し維持されている国のモデルを分析。日本のIPCシステムを歴史的に分析し、短期的には人材育成、中期的にはステークホルダーとの連携、長期的にはシステム基盤の整備が必要と結論。

COP28 健康の日

COP28において「気候変動と健康との因果関係のエビデンスベースの提示、ワンヘルスを含む気候変動の健康影響に対

処する適応策の特定と拡大、実際の行動を促進など、5つの主要トピックに焦点を当て、初の「健康デー」を開催。

PFOAとPFOSの発がん性評価(IARCモノグラフ)

国際がん研究機関(IARC)は飲料水にも含まれるPFOAをヒトに対して発がん性があるグループ1、PFOSをヒトに対して発がん性がある可能性があるグループ2Bと分類。

危険なスピード違反を抑制するためのマニュアル(第2版)

WHOとパートナーは、交通事故死傷者の惨害を抑制するため『速度管理マニュアル』第2版を発表。

WHO: 各国にアルコールと砂糖入り甘味飲料への増税を要請

WHOは、アルコールや砂糖入り甘味飲料(SSB)などの不健康な製品への課税率が世界的に低いことを示す新たなデータを発表。

UHCデー 2023

WHOは、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)デー2023で、健康システムの回復力を焦点を当てた具体的な行動を呼びかけ。テーマは、“Health For All : Time for Action”。

出産後女性の3分の1以上が健康上の問題を経験

ランセット・グローバルヘルス誌に発表された研究によると、女性が出産を原因とする長期的な健康問題を経験する可能性があり、直接的な生物医学的原因だけでなく、複合的な対処が必要と主張。

ワンヘルスアプローチの実施を支援するガイドを発表

ワンヘルス関係4国際機関は、COP28で、国家レベルでのワンヘルス共同行動計画の実施に関するガイドを発表。

慢性腰痛に関する初めてのガイドライン

世界的に障害の主な原因となっている慢性腰痛(LBP: low back pain)管理に関する初のガイドラインを発表。

流行性疾患とパンデミックに対する将来へのサーベイランス(報告書)

世界は感染症の危険にさらされ続けている。この報告書は、異なるスキル、世界観、経験を持つ第一線の専門家による「将来的なサーベイランスに関する意見、アドバイス」を反映し、実際の行動への道筋を示している。

注) 本サマリーは、WHO発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう標題及び冒頭部分を仮訳しているものですので、詳細内容については、QRコードを利用して、日本WHO協会のホームページ経由で、ニュースリリークス、声明、メディア向けノートなどの原文にアクセスできます。



呼吸器病原体のパンデミック対策計画のためのチェックリスト

このチェックリストは呼吸器病原体のパンデミックの対策計画を策定または改訂する際に役立つ運用ツールで、各が今すぐ実施できる優先的な行動を提案。

機関間統合トリアージツール

IITT；機関間統合トリアージツールには、成人用と12歳未満の小児用があり、緊急事態の救急において、傷病の重要な徵候の確認と判断を援助してくれる。

健康と気候変動政策への倫理の組み込みに関する新しい技術諮問グループ設立

WHOは、気候変動は人類が直面する最大の健康上の脅威であると認識し、気候変動、保健、倫理に関する新しい専門のワークストリームを設立。

医療の質に関する新コレクション

ブリティッシュ・メディカル・ジャーナルは、「各国は、緊急時を含め、医療サービスの質に継続的に注意を払う必要がある」と発表。

WHO：各国政府にUHCへの緊急投資を要請（世界保健支出報告書）

報告書では、UHCには保健分野への持

続的な公的資金投入が緊急に必要で「気候危機、紛争、その他の複雑な緊急事態に世界が直面している今現在、それが重要」としている。

WHO科学評議会：mRNAワクチン技術に関する報告書を発表

報告書では、他の感染症、癌や自己免疫疾患に対するワクチンや治療薬の開発におけるmRNA技術の価値を評価する枠組みも推奨。

顧みられない熱帯病に「ノーマ」を正式認定

WHOは、ノーマ（cancrum oris、壊死性潰瘍性口内炎（水癌））を、NTDsの公式リストに含めることを発表。

COVAXは終了、COVID-19 Vac.が定期接種に移行

COVAXは、2023年末で終了。この取り組みから得られた教訓は、今後のパンデミックへの備えと対応体制の構築において重要。

WHOとユニセフ：青年とその養育者を支援する新しい心理学的介入法を発表

苦悩を抱える青少年とその養育者を支援するため、認知行動療法（Cognitive Behavioral Therapy）をベースにした新

しい心理学的介入法「Early Adolescent Skills for Emotions (EASE)」を発表。

WHO 2024年の展望

2024年、WHOはワクチン拡大予防接種計画（EPI）、パンデミック協定、抗菌薬耐性（AMR）に関するハイレベル会合、孤独と社会的孤立との闇い、WHO第14次総合作業計画草案検討など、さらなる一步を踏み出す。

2番目のマラリアのワクチンを認証

WHOは、R21/Matrix-Mマラリア・ワクチンを、2番目の認定済みワクチンのリストに追加。

「デング熱」増加

デング熱の発症率は過去20年間で10倍と著しく増加し、その拡大リスクにエルニーニョ現象や気候変動、脆弱な健康システム、政治的・財政的不安定性、高い人口移動など、いくつかの要因が関係。

WHO：テドロス事務局長2023年末メッセージ；「健康への希望を持ち続けるために」

1. グローバルヘルスにおける節目と挑戦の年
2. 健康に対する計り知れない、回避可能な苦しみと脅威の年

12月のWHOファクトシート改訂項目

以下のファクトシートが改訂されています。詳しくは当協会のファクトシートのサイトをご覧ください。
<https://japan-who.or.jp/factsheets/>

- ・ダイオキシン類
- ・人権
- ・マラリア
- ・コレラ
- ・道路交通傷害
- ・ノーマ（水がん）
- ・家庭の空気汚染
- ・乳幼児の食事

1 月
January

気候変動と健康(事務局長報告書)

気候変動による健康リスクと、この脅威に対するグローバルヘルス・コミュニティの必要な対応について概説。1 (気候変動による健康への脅威。2 (気候危機への健康対応の目標。3 (加盟国を支援する事務局の行動案。

西太平洋地域の新しい未来を探る3つの特別プロジェクト報告書

2020年、WHO西太平洋地域事務局のデータ・戦略・イノベーション(DSI)グループは、パンデミック時の生活を体系的に評価し、COVID-19が蔓延した世界の将来がどのようになるかを予測するために、3つの特別プロジェクトを実施。

保健緊急時の公衆衛生・社会的対策(PHSM)に関する第2回世界技術会議

PHSMの有効性と影響を測定するWHOイニシアチブの下で開発されたマイルストーン、ツール、リソースのレビューを

実施。節足動物媒介性ウイルス、人獣共通感染症の流出、パンデミックの可能性のある新型呼吸器ウイルスに対する意思決定者、研究者、地域社会がとるべき重要なPHSM初期行動をまとめた。

オンコセルカ症撲滅プログラムにおけるニーズとギャップの調査報告書

報告書は、「オンコセルカ症撲滅のための世界ネットワーク(GONE)」のスコーピング調査結果をまとめたもので、GONEパートナーが実施すべき優先分野と重要なアクションを決定するのに役立つ。

WHO第13次総合事業計画(GPW13、2023)評価報告書

GPW13は、国連がその実施をどのように進めるかを概説し、保健関連の持続可能な開発目標に向けた取り組みの進捗状況を測定するための枠組。GPW14の策定に重要なインプットを提供し、結果の枠組みを改善することを目的とし、4つの包括的な評価目標に取り組むとしている。

世界顧みられない熱帯病の日2024

1月30日は、2012年にWHOの最初のロードマップと顧みられない熱帯病(NTD)に関する「ロンドン宣言」が発表された日。今年の世界顧みられない熱帯病の日(WNTDD)のテーマは、「団結 Unite、行動 Act、排除 Eliminate」。

WHO Bulletin: 公衆衛生の総まとめ

WHO Bulletin 2024年1月号は、2023年の公衆衛生の総まとめ(気候変動アジェンダにおける健康他、9項目)を掲載。

ビデオゲーマーは、不可逆的な難聴や耳鳴りにさらされる可能性

「BMJ Public Health」に掲載されたシステムティックレビューで、世界中のビデオゲーマーが不可逆的な難聴や耳鳴り(持続的な耳鳴りやブザー音)を発症している可能性があることが明らかになった。

注)本サマリーは、WHO発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう標題及び冒頭部分を仮訳しているものですので、詳細内容については、QRコードを利用して、日本WHO協会のホームページ経由で、ニュースリリークス、声明、メディア向けノートなどの原文にアクセスできます。



たばこの使用は減少（報告書）

「たばこ動向報告書」の最新推計によると、世界的にタバコの使用率は引き続き減少していくが、ほとんどの国で 10 代前半の若年者たちがたばこやニコチン製品を使用していることが示されている。WHO は、世界禁煙デーのテーマを「たばこ産業の干渉から子どもたちを守る」とする予定で、各国に対し、引き続きたばこ規制政策を実施するよう求めている。

健康の公平性の社会的決定要因モニタリング・運用フレームワーク
第 76 回世界保健総会で「健康の社会的決定要因と健康の不平等の測定、評価、および分野横断的な視点からの対処のための運用フレームワーク」が承認された。「健康の公平性の社会的決定要因に関する世界報告書」と共に、健康の公平性を促進するために、健康の社会的決定要因に取り組む先鞭となる。

WHO : 大規模なマルチモーダルモデル (LMMs) のための AI 倫理・ガバナンスガイダンス
ヘルスケアの分野で急速に発展している

人工知能 (AI) 技術の一種である LMMs を、人々の健康を促進・保護するため利用するため、政府、テクノロジー企業、ヘルスケアプロバイダーが考慮すべき 40 以上の推奨事項を概説。

ワクチン接種の意思決定に情報を提供するための考慮事項スライドセット

このスライドセットは、保健当局が Covid-19 ワクチン接種の戦略的決定を行う際の方向付けに役立てるためのもので、10 項目の論点から構成され、他のワクチンにも、読み替えての応用が可能。

世界経済フォーラムでの WHO 事務局長発言

WHO の世界地産地消フォーラム (World Local Production Forum) は、地域的、世界的な取り組みを調整し、活性化し、同期化するもので、WTO や WIPO と連携。

WHO 執行理事会、地域事務局長を任命

東地中海、南東アジア、西太平洋地域の 3 人の新しい RD : Regional Director を

任命。任期は 5 年。

西太平洋地域 ; Dr Saia Ma'u Piukala (トンガ出身、政治家、公衆衛生指導者、そして約 30 年の経験を持つ外科医でトンガの保健大臣。WHO 執行理事会トンガ代表)。

第 154 回執行理事会、WHO 事務局長開会の辞

最も重要な議題の一つは、第 14 次総合事業計画 GPW14 の草案で、包括的目標は 5 つの P (to promoting, to provide, to provide and to protecting health, and Powering Health)。そして、パンデミック協定、国際保健規則 IHR (2005) の改正、持続可能な資金調達のための新しいアプローチへの重要な機会。

「青少年の健康のための世界的加速行動 (AA - HA !) ガイダンス 第 2 版」ウェブ版を公開
WHO は、青少年の健康とウエルビーイングの課題、機会、ニーズに政府が対応できるようにすることを目的とし、AA - HA ! ガイダンス 第 2 版の Web 版をリリース。

1月のWHOファクトシート改訂項目

以下のファクトシートが改訂されています。詳しくは当協会のファクトシートのサイトをご覧ください。
<https://japan-who.or.jp/factsheets/>

- ・栄養不良
- ・支援技術
- ・動物咬傷
- ・白リン
- ・トランス脂肪